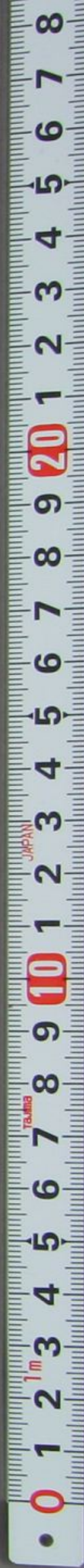
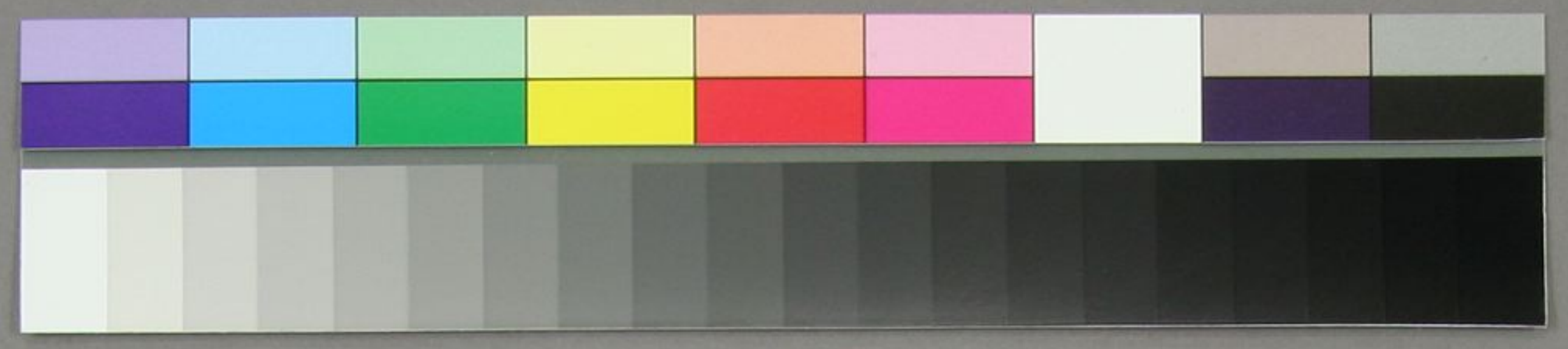


書
170

其後心外、大欠禮
の宥恕被下度有奉
年、九州地方も氣候
不順都下別々の
事と想像は先以
尊兄倍所健勝玉相
渝各方面に所盡力為
國家を慶祝先吹、
井伊常子の事、人相
宗長泰と具體的露
骨なる言遠慮我侯
の義中願仕と後所繼



身長身骨白

骨なるを遠慮我供

し義の願は悔の懃

者をも蒙るるのみの子連

の承引よふ趣誠の意

切しよま感謝を言ふ

是等婦女子由情的の

事をも以て煩をもいふお好

を得共何分我の不行屈

雷より玉得と此こより

の兄弟恐縮は叔見婦

政子 義の蔭こそえ健

康元氣よく分悦期

い多分六月初旬からん

と醫の申居り由産

よの早速電信と以て

の報道の仕を直儀に彼

地に於て極めて元氣え

五月一日より森林林實

地見學を掛る由小生

地^に於て極めて元氣を

五月一日より森林林業

地見學正掛^{小生}由

石お済碌に成功

然し教育と殖

産の事^に御心を

用ひ地方青年團在

郷軍人^にお女子

鶴風會^を率^て勉め

臨席教^を毎^を言

田舎^に他の刺戟と更

らること少きと以て抱

負^をま^を淋^に進^を取^の氣

象^に之^をく^を間^を在^を淨

今日の形勢と説き我

國民は使命の重きを

示し^て規模の廓大

に務め^る所^を知^る

所は慮^を及^ぶ可^い解^り

象に之しくを問ふ得
今日の形勢を説き我
國民は使命の重きこと
示し王親様の廓大
に務め居るを悼
所は慮はるる中解り
尔長き摺筆を以
頓首拝

五月十五日

直彬

大隈仁先生

尊下